



特定非営利活動法人 Arts Planet Plan from IGA

アトリエニュース

〒518-0205 三重県伊賀市伊勢路字青山1381-77 Tel(186-)0595-53-1077



[2016.12.18 発行 編集担当:石津 勝]

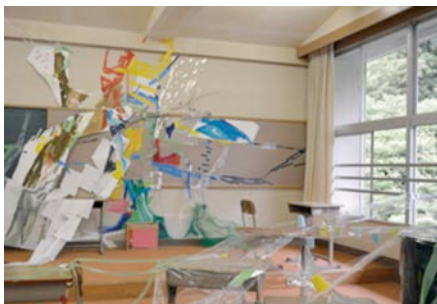
師走に入り、皆様、お忙しい日々が続いていることかと思えます。今号では、9月に行われた「風と土のふれあい芸術祭 in 伊賀 2016」、いがぶら「本格穴窯焼成で陶芸を楽しもう!」や12月の研修旅行などの報告を中心にお届けします。

「風と土のふれあい芸術祭 in 伊賀 2016」を終えて

早いもので、終了後 2 か月が過ぎ、師走を迎えている。会員の皆様も新春を迎える準備に慌ただしい日々を送っておられる頃だと思う。今年の「風と土のふれあい芸術祭 in 伊賀 2016」は、様々な意味で天候に翻弄された。

初日と二日目は「風と土のアートフェア」の開催日だったが、近づいている台風の影響で 2 日も生憎の雨で、お客さんの来場が予想ほどは伸びず、出展・出店された方々は準備したものが残ったところもあったようである。また、雨天のため、屋外から体育館に移ることになった出展者や地元 FM ブースがあり、結果、手狭になり出店を断念された方も出た。初日の夕方パーティ&交流会も例年より参加者が多く、丁度、盛り上がりかけたところに、突然のゲリラ豪雨と強風で店舗用のテントが 1 回転するなど、トラブルが発生し、ずぶ濡れになりながらテントを撤収し中断せざるを得なくなった。また、20 日は台風のため 1 日休止とした。日照時間の関係で稲刈りの時期がずれた結果、地元の方々が農繁期と重なり参加や運営での支障を来した。「風と土のかたち展」は、出品者は例年程度であったが、説明会や搬入・搬出に來られる方が少なく、結果、友人・知人任せとなり会場当番の数が不足した。アーティストインレジデンスは、現役大学生の大野高輝さんが、旧音楽室を舞台にインスタレーションで空間構成する作品を展開してくださったが、土日が不在になる場面が多く、地域住民の方との交流時間が例年より少なかったようだ。運営組織は実行委員会としているものの、実際の運営実務を担当するのは事務局長の澤田さんをはじめ四季の森「やもち」ゆめ倶楽部の数人のメンバー、山のめぐみ舎の神保さん、本 NPO 法人の事務局員数人、ボランティアの有田さんご夫妻、猪上さん母娘が主体で、相変わらず慢性的な人員不足の状態が続いている。今回は、様々な意味で次年度以降の開催に幾つかの課題を提示する形となった。開催時期の問題、アートフェアの内容、展覧会の出品者の募集、或いはこの芸術祭自体の目指す方向性など、地元の方々と意見の交換と摺り合わせがより一層重要になってくると考えられる。また、8月に上野の史跡旧崇廣堂で行ったプレ展覧会の広報効果の検証も必要である。今は、先ず地元の意見集約に努めて頂く期間で、その結果を受けて、実行委員会事務局会議の皆さんと今後の検討を進めることになる。アートフェアに初めて法人からブースを出展したが、所謂、店番に協力してくださったのは二人だけだった。出すだけでなく当番も交代でして頂ければ、皆が大いに助かるのだが、一部の方にご負担をお掛けする結果となったのは残念だ。法人としての関わり方や実行委員会の構成員其々の覚悟が問われる時期に来ているようだ。

(風と土のふれあい芸術祭 in 伊賀 実行委員会: 森田 耕太郎)



レジデンス作家の大野高輝さんの展示風景



風と土のかたち展の展示風景



アートフェアの屋外テント

第 2 回実技講習会「染織/草木染め&工房見学」の報告

今回の講習会は、夏まっさかりの 8月20日に、講師の松永ゆう子氏が主宰されている伊賀市東谷の工房「山帰来」さんに伺い行きました。

参加者は会員7名、一般の方1名の計 8 名。はじめに説明を受けたあと、まず緑あふれる工房内外で今回の染料の材料となる赤紫蘇とねむの葉を採取。二手に分かれて、それらを煮出し、染液をつくりました。

赤紫蘇は錫、ねむの葉はチタンで媒染すると、それぞれもとの色からは想像できないような美しい色がショールなどの布にうつし取られました。

(写真では十分に伝わりませんが、紫色: 赤紫蘇、オレンジ色: ねむの葉です)

(実技講習会担当: 森田佳子)



研修旅行「備前焼・閑谷学校・奈義町現代美術館・西粟倉村の旅」の報告



12月3日(土)～4日(日)の日程で岡山県備前・西粟倉・奈義方面へ、会員7名、一般4名、計11名の参加で3台の車に分乗して行きました。最初に着いたのは三百年以上前にできた「庶民のための学校」閑谷(しずたに)学校、大陸的な様式の建築や特徴的な丸みのある周囲の石垣など、美しくも興味深い造形のものでした。その後、備前焼の窯元と備前焼ミュージアムを訪れ、素朴で味のある備前焼を、焼肌の景色の違いと共に価格の違いも鑑賞して回りました。

宿泊は国民宿舎あわくら荘、会席料理をはじめ、山賊鍋、カニ鍋と各々が食べたい料理を、地酒と共に賑やかに美味しく頂くことができました。

翌日は、「百年の森構想」を実践している西粟倉村で、家具のショールームや木工の工房などを訪問させてもらい、移住者が全住民(約1600人)の1割にも上るといふことなど、前向きな良い話も聞けました。移住希望者に借家を斡旋したり、オープンに迎え入れる西粟倉村の行政と共に、住民たちの懐の深さがある様に思えました。過疎化が進む日本の多くの中山間部にとっては、とても羨ましい村かもしれません。

帰路は、常設の立体作品と建築とが一体となった奈義町現代美術館に立ち寄り帰りました。最後は雨の中、中国自動車での渋滞に会いましたが、なんとか夕方到大阪着、皆さん、お疲れ様でした。次回も一緒にしましょう。(記事担当:石津 勝)

写真上段:あわくら荘前で集合写真 下段:家具のショールームに続く景色の良い山道

いがぶら「本格穴窯焼成で陶芸を楽しもう！」

法人のワークショップとして、第3回「いがぶら(伊賀ぶらり体験博覧会)」に初めてエントリーしました。プログラム41番、タイトルは「本格穴窯焼成で作陶を楽しもう!」、キャッチフレーズは「作陶三昧と蕎麦打ち名人の手打ち蕎麦に舌鼓を打ちませんか?」でした。11月20日(日)に開催し、7名の参加がありました。

森田代表による法人の紹介と穴窯焼成の説明の後、「粘土カフェ」のメンバーが講師として技術指導にあたり、一日ゆっくりと自由に作陶していただきました。手口ロクロを使った手ひねりや紐作り、タタラ作り、電動ロクロをする方もあり、皿・鉢・花入れなど19点の作品が出来上がりました。お昼は、会員手作りの手打ち蕎麦と揚げたての天ぷらを味わっていただきました。「穴窯でどのように焼き上がるか楽しみ」「今までしてみたかった陶芸を初めて体験できた」「伊賀にこのような活動をしている所があることを今まで知らなかった」という感想をいただきました。この度の取り組みを通して、法人活動の輪が広がると嬉しいです。



いよいよ 第8回「穴窯焼成」が始まる

10月16日(日)、11月19日(土)、第8回「穴窯焼成」の作品の持ち込み日でした。41名2団体の作品379点が集まりました。内訳は、粘土カフェメンバー(11名)252点、その他の法人会員(3名)10点、一般(17名2団体)82点、中学生(1名)1点、学生(3名)15点、また「いがぶら」参加者の作品も一緒に焼成します。

両日の参加者は、のべ17名、穴窯の扉づくり、薪ストーブの薪割り、アトリエ周辺の草刈りなども行いました。集金しました焼成費で、窯の扉と、扉を支える枠を新調することができ、備品の補充をしています。このニュースが届く頃には、窯詰めは終了しています。12月21日からは、いよいよ窯焚きです!(「粘土カフェ」担当:田上 早百合)

事務局からのお願い!

- 本法人は、皆様方からご納入頂きました会費で運営されております。常々、ご協力有難うございます。未納の方は、早目の納入にご協力をお願い致します。

(郵便局) ゆうちょ口座: 00890-1-106346 NPOアーツ プラネット プラン フローム イガ

(他行) ゆうちょ銀行 金融機関コード 9900 店番 089 店名 O八九店(ゼロハチキユウ店)
当座 0106346 アーツプラネットプランフロームイガ